



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業計画書 2016

公益社団法人日本キャンプ協会

公益社団法人日本キャンプ協会 2016年度 基本方針

日本キャンプ協会は1966年に設立され、今年、50周年という記念の年を迎えます。この50年間に培われ、受け継がれてきたものを再認識するとともに、将来につながる新しい価値を示すための事業を進めたいと考えています。

年間を通じて記念事業を多数行う計画ですが、その中でもっとも規模の大きいのが10月に行う第6回アジア・オセアニア・キャンプ大会(The 6th Asia Oceania Camping Congress)です。日本キャンプ協会にとって、国際的な大会の開催は2000年の第5回国際キャンプ会議以来16年ぶりとなります。ただ単に多くの人に参加する場をつくるのではなく、多くの会員や関係各団体の方々が、「伝える側」「つくる側」に立って参画できるようなプログラムづくりと働きかけに努めます。国内のみならず世界中からキャンプ関係者が集い、学びあい、交流することで、新たなつながり、次につながるアイデアを生み出したいと思えます。

このほかにも、より多くの方々と50周年をともに祝うためのさまざまな事業を計画しています。秋に発行を予定している『キャンプ白書2016』では、国内外のキャンプ関係者を対象としたアンケートを実施しました。キャンプの魅力フォトコンテストは、キャンプの楽しさや自然の美しさを伝える写真を広く募集します。また、都道府県キャンプ協会で行う事業も含めてすべてを記念事業ととらえ、参加いただく方々に日本キャンプ協会および都道府県キャンプ協会の活動をより知っていただく機会としたいと考えています。

また、51年目からの日本キャンプ協会の活動をよりよいものにしていくための取り組みも合わせて進めます。日本キャンプ協会の基盤となっている指導者資格を伴う会員制度は、資格というものに対する意識の変化や、人口動態の変容の影響を受け、必ずしも盤石とは言えない状況にあります。しかし、現代の社会的課題の細分化や地縁の薄まりに呼応して、社会教育の優れた場としてのキャンプの重要性はいつそう高まっています。公益法人としてキャンプを通じた社会貢献をいかに広げていくか、行うべきことをあらためて見つめ直す必要があります。

全国的な広がりをもつ日本キャンプ協会にとって、限られた資源の中で十分なコミュニケーションを保つことは大変難しいものですが、会員や関係団体のみなさまのお力添えを得ながら、取り組みを進めていきます。多くの人々と出会い、交流を深めることで、キャンプの新たな可能性を見いだすことのできる一年にしたいと思えます。

設立 50 周年記念事業

1966年に設立された日本キャンプ協会は、2016年に設立50周年を迎えます。記念事業として、「第6回アジア・オセアニア・キャンプ大会」を中心とする複数の事業を計画し、多くの人の参画を目指します。

- ・ 設立50周年記念式典
- ・ 第6回アジア・オセアニア・キャンプ大会 (The 6th Asia Oceania Camping Congress)
- ・ キャンプ白書2016
- ・ キャンプの魅力フォトコンテスト
- ・ 設立50周年記念WEBサイト

キャンプの普及と振興につながる事業を着実に実行

キャンプの普及と振興につながるさまざまな事業に改善を加えながら、着実に実施していきます。

- ・ キャンプインストラクター／キャンプディレクターの養成
- ・ Café de Camp／CAMPING 発行などの研修事業
- ・ Camp Meeting in Japan／キャンプ研究などの情報の発表と交流の場の提供
- ・ 体験活動の場としての静岡県立朝霧野外活動センターの運営
- ・ Special Needs Camp に関連する調査研究

51年目からの日本キャンプ協会を考える

社会の変容に応じてキャンプの意義も多様化しています。また、指導者資格を基本とした会員制度の維持は、今後難しくなっていくことが予想されます。こうした変化に対応する方策を検討し、社会に貢献し続けることのできる日本キャンプ協会の設立51年目からの姿を多面的に検討します。

- ・ 指導者養成制度の改良に向けた検討と作業
- ・ 多くの人が関与する新たな運営体制づくりに向けた検討
- ・ 経営基盤の安定化と新たな経営資源の模索

2016 年度

公益社団法人日本キャンプ協会 事業計画

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業	5
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業	13
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業.....	17
法人事務	19

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業

この年、日本キャンプ協会は設立 50 周年を迎える。それを記念して「第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会」をはじめ、さまざまな形態の事業を行い、多くの人々がそれぞれの形で記念事業に参加できる機会を設ける。こうした事業が単なる記念事業にとどまらず、今後の日本キャンプ協会の活動を支える資産となるよう、新しいつながりづくりを意図した事業運営を行う。

また、キャンプを通じた社会貢献の実現には、多くの理解者、支援者を得ることが必要となる。そのためには私たち自身が現代の社会状況の把握や対象の理解を深めていくことが欠かせない。そこで、先行事例等の情報収集などを行うとともに、そこで得られた情報の共有を積極的に図る。

1. 設立 50 周年記念事業

設立 50 周年となる 2016 年度には、50 周年記念式典、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会 (The 6th Asia Oceania Camping Congress : AOCC2016)、『キャンプ白書 2016』発行のほか、フォトコンテストや各事業における記念ステッカーの配布など、多くの人々が関与できる事業をあわせて行う。

(1) 設立 50 周年記念式典

設立 50 周年を祝う式典を行い、30 年以上の永年会員表彰、日本キャンプ協会の新しいビジョンの発表等を行う。

日 程：2016 年 10 月 29 日 (土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

(2) 第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会

The 6th Asia Oceania Camping Congress : AOCC2016

国内外のキャンプ関係者が集い、交流し、学びあう場として、アジア・オセアニア・キャンプ大会を実施する。あわせて、大会前後には International Camp Director Course 講習会、キャンプ施設や観光地を巡るポストコングレスツアーを計画している。

日 程：2016 年 10 月 28 日 (金)～11 月 1 日 (火)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

(3) キャンプ白書 2016

国内を中心にキャンプに関連する情報を集めた『キャンプ白書』を発行する。海外の方々にも読んでいただけるよう、一部の内容について英訳する。

発行予定：2016 年 10 月

発行部数：2,000 部

(4) 設立 50 周年記念 WEB サイト

特別の WEB サイトを設け、記念事業のお知らせや日本キャンプ協会の歴史などを見られるようにする。運営にあたっては、エッセイや写真の提供を通じて、多くの人がかかわることができるよう工夫する。

URL : www.50th.camping.or.jp

(5) キャンプの魅力フォトコンテスト

国内外から広くキャンプの魅力を伝える写真を募集し、コンテストを行う。優秀作品には賞を贈るとともに、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会の際に展示、表彰を行う。

募集期間 : 2016 年 1 月～8 月

(6) キャンプ安全いろはかるた

キャンプ安全標語を募集し、これまでに募集したものとあわせて「キャンプ安全かるた」を作成する。

(7) 設立 50 周年記念グッズ配布

日本キャンプ協会会員および都道府県キャンプ協会の実施する事業に参加される方々に、記念品を配布し、各地で行われるキャンプ参加の呼びかけとキャンプ協会に対する認知度の向上を図る。

配布期間 : 2016 年 4 月～3 月

予定数 : 15,000 枚

設立 50 周年記念事業の運営体制について

記念事業については準備が多岐にわたるため、以下の委員会、部会を設けて作業を分担する。

50 周年記念事業組織委員会	記念事業全体の検討と承認
大会事務局	AOCC2016 の運営全体の管理を担当
実行委員会	各部会等の連絡協議体
研究・研修部会	AOCC2016 における発表、ワークショップ等の企画・運営を担当
キャンプ白書部会	キャンプ白書 2016 の企画・編集を担当
イベント部会	AOCC2016 におけるパーティ等の企画・運営を担当
ホスピタリティ部会	国外参加者対応、ボランティア対応等を担当
ICDC 部会	プレイベントとしての研修会「International Camp Director Course(ICDC)」の企画・運営を担当

第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会について

日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業は、各都道府県キャンプ協会のご協力もいただきながらさまざまなものを行いたいと考えていますが、その中心となるのが、10 月に行う第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会（The 6th Asia Oceania Camping Congress）です。

アジア・オセアニアに限らず全世界のキャンプ関係者の集まる大会ですが、せっかくの機会ですので、日本キャンプ協会の会員のみなさんや、国内でキャンプや子どもにかかわる多くの人々に集まっていただきたいと思っています。

大会期間中には、日本キャンプ協会の設立 50 周年記念式典や、会員のみなさんの集まる場を設けます。また、他の参加者とともにお祝いするパーティや、小さな団体でのイベントなども企画しています。

多くの人が集い、交流し、学びあう楽しい時間を作りますので、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。（また、通訳などボランティアスタッフの募集も別途行います。）

大会のテーマは「アウトリーチ～手をさしのべるキャンプ～」です。

キャンプは、参加する人たちに力を与える活動です。そのキャンプのよさを広げて、もっともっといろんな人に「キャンプしませんか？」と呼びかけ、キャンプを行い、よりよい社会を作っていこうというものです。海外の先進事例だけでなく、みなさんが地域で行っている活動を紹介していくことで、学びあいの輪を広げませんか？



日 程：2016 年 10 月 28 日(金)～11 月 1 日(火)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加費：全日程・29,000 円 3 日間：24,000 円 2 日間：16,000 円 1 日間：9,000 円

※宿泊費は別途

※参加費には大会プログラム、キャンプ白書、大会バッグ、記念 T シャツ、パーティ参加などを含む

大会 WEB サイト www.aocc2016.camping.or.jp/japanese/（インフォメーション）

www.aocc2016.camping.or.jp/japanese/call-for-presenter（発表受付）

<https://biz.knt.co.jp/tour/2016/aocc/>（参加受付）

大会 Facebook www.facebook.com/AOCC2016TokyoNCAJ50thAnniversary/

2. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB やメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努める。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に対応するとともに、キャンプ実施などに対する支援を行う。

(1) 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプの教育的、社会的意義や安全にキャンプを行うための情報など、多様なことから全国の指導者会員のみならず、広く一般にも伝えるために、会報誌「CAMPING」を発行する。

発行回数：年間6回

発行部数：約13,000部

(2) WEB サイトの運用

幅広い情報のやりとりが可能なインターネットを活用し、多様かつ即時性の高い情報発信を行う。WEB サイト（www.camping.or.jp）では日本キャンプ協会の基本情報や新着情報を提供するほか、イベントカレンダーで都道府県キャンプ協会等が実施する事業の紹介も行う。

(3) メールマガジンの配信

イベント、研修会の情報や、助成金、人材募集などの情報を掲載したメールマガジン「CAMPING News」を発行する。

発行回数：年間17回程度（3週間毎）

送信件数：約2,500件

(4) キャンプインフォメーションセンター

広く一般に向けた情報提供を行う目的で、キャンプインフォメーションセンターを運営する。キャンプに関する相談に応じるほか、キャンプの企画・運営受託や各種関連事業に対する講師派遣、運営支援等を行う。これにより、キャンプの普及を図るとともに、キャンプ指導者の活躍の場が広がることも期待される。

3. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

この年度は、静岡県立朝霧野外活動センターの管理運営に参画してちょうど10年目という節目の1年となる。

朝霧野外活動センターは、静岡県教育委員会社会教育課の所管施設としてその機能を十分に果たしつつ、一方では日本キャンプ協会にとってのキャンプ・自然体験活動の実践の場として多くの事業を実施し、新しい野外活動の在り方やその具体的展開方法の開発に努めてきた。この年度も、主催事業、受け入れ事業を通して多くの人々の自然体験活動を支援するとともに、新規プログラムの

開発や定着に力を注ぐ。また、周辺地域の人々や施設との協力関係を更に進めながら、地域に根差した野外活動センターとしての営みを継続する。

なお、地震その他の天災など緊急時の備えについては、静岡県及び周辺地域住民との連絡を密にし、緊急連絡網及び災害・事故対応マニュアルを基に利用者が安心かつ安全に活動ができるよう徹底する。

(1) 自然体験活動事業(自主事業)の実施

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう 富士山～	7月3日	小学校 5～6 年生 中学校 1～3 年生	事前研修
	8月6日～14日		本研修

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	備考
野外活動プログラム実習	4月22日～23日 11月11日～12日	利用団体の担当者 および指導者	
長期キャンプ 指導者養成講習会	6月18日～19日	専門学校生 短大生 大学生	全4回参加が必要 8月6日～14日は 朝霧高原サマーキ ャンプと並行開催
	7月9日～10日		
	8月6日～14日		
	10月15日～16日		
野外活動指導者養成講習会	2017年2月10日～12日	野外教育に興味のある人 青少年団体の指導者 教育関係者	

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
ちょっといい春 感じませんか	4月29日～30日	家族・小グループ	
朝霧高原 トレイルランニングレース	9月10日～11日	家族・小グループ	
すてきな秋をあなたに	10月1日～2日	家族・小グループ	
オリエンテーリング in 朝霧	11月26日～27日	家族・小グループ	
スケートキャンプ	12月9日～10日	家族・小グループ	
	2017年1月13日～14日		
	2017年2月17日～18日		
	2017年3月3日～4日		

事業名	日程	対象	備考
223(ふじさん)ウォーキング	2017年2月26日	家族・小グループ	静岡県富士山の日
プラネタリウムと星空探訪	冬休み及び春休みに 各2回計4回	家族・小グループ	
スケートフェスティバル in あさぎり	11月6日 2017年3月5日	家族・小グループ	

施設開放事業

事業名	日程	対象	備考
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	13:15～14:45 15:00～16:30
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	13:00～15:30 15:30～18:00
朝霧カーニバル	11月6日	どなたでも	
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日又は木曜日	センター周辺の小 学校5校)に通う 児童とその家族	15:30～17:00
富士あさぎり農業体験組合 20周年記念映画上映会	4月24日	センター周辺の小 学校5校)に通う 児童とその家族	「夢は牛のお医者 さん」の自主上映 会及び酪農体験プ ログラムを実施

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	備考
ホッとキャンプ	2017年3月7日～10日	不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年	

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日程	対象	備考
走れば山が美しくなる	通年 事業開催時	事業参加者	インターネットに よる啓発を中心 に実施する。

(2)受け入れ事業の支援

学校や地域の諸団体に利用目的に合った適切なサポートを行う。利用団体の担当者がより効果的に研修プログラムを展開できるよう、各プログラムについて職員がオリエンテーションや指導法の解説を行う。また、安全かつ安心しての利用できるよう、実際のプログラムの際の支援も必要に応じて行う。

(3)新規プログラムの開発

野外活動における安全マニュアルを遵守しつつ、ハイキング、オリエンテーリング及びフォトロゲイニング等の、地図とコンパスを利用できる活動を、利用者が目的に沿った形で気軽に行うことのできるよう多様に準備して、その定着を図るとともに、多くの野外活動を実施する際に必要となるナビゲーションスキルの普及を図る。また、朝霧地域の自然を紹介して、その魅力を知り、自然に対する理解を深めることが出来るような新しいアウトティングプログラムの開発に努める。様々な自然体験プログラムを用意することで、リピーターにとっても年間を通じて奥深い魅力の感じられる施設づくりを目指す。

(4)地域との協働

隣接する富士丘地区をはじめ近隣地域との協力関係をさらに深め、酪農の魅力を多くの人に伝えていくための事業を共催によって実施する。また、朝霧野外活動センターが実施する各種事業への協力を仰ぐとともに、積極的に地域の行事へ参加をすることによって相互理解を図り、地域の活性化に寄与する。

国立中央青少年交流の家が推進する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力し、朝霧野外活動センターを会場にして、朝霧カーニバルと同日程で開催する。

4. 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

キャンプ指導者、キャンプ愛好者が身近な地域の情報を得ることができるよう、都道府県キャンプ協会の広報活動の支援を行う。

- ・ 会報同封サービス(会報誌等を CAMPING に同封して会員に安価に送付するサービス)の提供
- ・ WEB サイト用サーバー及び専用メールアドレスの提供
- ・ 各種情報の提供

5. 出会いと体験の森へ第6期（他団体と共同で行う事業）

日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟という「人を育てるキャンプ」に携わる団体が協力して、キャンプのよさを広く伝えたり、指導者の養成につながる事業を行う。

この年度は、これまでの5年間の活動を顕彰し、今後の展開を検討する1年とする。

6. 国外の情報の収集と提供

国際キャンプ連盟やアジア・オセアニア・キャンプ連盟等の国際ネットワークを活用して情報の収集を行い、会員をはじめ広く一般に提供する。

また、国外から得られた情報のうち会員等にとって有用と思われるものについては、抄訳を作成

するなどして、積極的に共有を図る。

(1) アメリカキャンプ協会年次大会 (2017 ACA National Conference) への参加

会議日程：2017年2月(予定)

会場：未定(米国)

(2) 国外情報の日本語による提供

国外の有用な情報の抄訳を作成し、WEBサイトやCAMPING誌面などを通じて紹介する。

7. 安全啓発キャンペーン

キャンプを楽しく有意義な活動とするためには、一人ひとりが安全意識を高めることが求められる。そこで、7月第3日曜日の「キャンプ安全の日」を中心とする7月・8月に安全啓発キャンペーンを実施する。

また、それに先だって安全標語(キャンプ安全いろはかるた)の募集を行い、野外における安全について、多くの人に意識していただく機会を設ける。

安全標語募集期間：2016年4月～6月

キャンペーン期間：2016年7月1日(金)～8月31日(水)

キャンプ安全の日：2016年7月17日(日) ※7月第3日曜日

8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

都道府県キャンプ協会がより多くの人を対象としてキャンプの普及につながる事業を行えるよう、助成金を受けて、キャンプや講習会等で活用できるテント等のキャンプ用品、用具を配備する。

※一般財団法人日本宝くじ協会に助成金を申請(2015年10月に申請済み)

9. 研修・普及に関する事業改良の検討

キャンプの活動を発展させ、広めていくための取り組みは、取捨選択、改良を積み重ねながら継続的に行われてきた。しかし、ここ数年を見るだけでも、キャンプに関連する新しい課題、テーマがいくつも生じるとともに、情報伝達のための手段はますます多様化している。こうした変化に対応し、より効果的な事業運営を行うために、委員会を設け、研修及び普及事業のあり方を検討する。

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業

キャンプの有用性・有効性を最大限に発揮させ、人々の心身の発達に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、本協会発足以来の大切な事業である。この年度も課程認定団体とともに指導者養成を着実に進める。

あわせて、指導者養成制度の改良の作業を進める。キャンプディレクター養成テキストの改訂とともに、キャンプディレクター2級養成講習会のおびき作成の作業を進める。この内容については2017年度以降に反映させることを予定している。

1. 公認指導者養成

(1) キャンプインストラクター養成

初級資格であるキャンプインストラクターの養成は、課程認定団体(全 170 団体)主催で実施する。

(2) キャンプディレクター2級養成講習会

中級資格であるキャンプディレクター2級の養成は、課程認定 A 団体(都道府県キャンプ協会)および事前に実施承認を得た B 団体(課程認定校)主催で実施する。

(3) キャンプディレクター1級養成講習会

上級資格であるキャンプディレクター1級の養成講習会は、日本キャンプ協会主催で実施する。

日程：2016年11月25日～27日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

(4) キャンプディレクター1級検定会

キャンプディレクター1級の検定会は、日本キャンプ協会主催、2会場で開催する。

東日本会場

日程：2017年1月21日、22日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

西日本会場

日程：2017年2月頃

会場：未定

(5) キャンプディレクター2級移行措置

キャンプディレクター2級プログラムディレクター(PD)およびマネジメントディレクター(MD)のキャンプディレクター2級への一本化に伴う移行措置を実施する。今年度が移行の最

終年度となるため、2級PD、2級MDともにレポート課題による移行を進める。

2. キャンプ指導者の審査・認定

(1) キャンプインストラクター新規資格申請者の審査・認定	目標	2,700人
(2) キャンプディレクター2級申請者の審査・認定	目標	90人
(3) キャンプディレクター1級申請者の審査・認定	目標	30人
(4) 指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新	目標	7,600人
(5) 課程認定団体の審査・認定 新規課程認定団体	目標	10団体

3. 課程認定団体向け研修会

課程認定団体の指導者養成担当者を対象に、カリキュラムに則った指導者養成が行えるよう研修を行う。

日 程：2016年6月4日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

4. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクター養成用として「キャンプ指導者入門」、キャンプディレクター養成用として「キャンプディレクター必携」の2種類のテキストを発行する。

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

全国の都道府県キャンプ協会の会務を担当する指導者が集まり、それぞれの協会の状況等を共有し、継続的な指導者養成、協会運営を可能にするための研修を行う。

日程：第1回 2016年6月5日（日） 第2回 2017年3月12日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

6. 都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業等の承認及び支援

キャンプ指導者が新しい知識や技能を身につけたり、指導者同士が顔の見える関係をつくったりすることを目的に実施する BUC (Brush Up & communication) 事業を承認し、支援する。

※ 所定の期間に BUC 事業に参加し、手続きを完了した会員に対しては、次年度の資格更新料を免除する。

7. 公認資格取得機会拡大につながる取り組み

日本キャンプ協会公認指導者資格の取得機会を拡大するため、課程認定団体のあり方の検討も含め、課程認定団体数の増加に向けた取り組みを進める。

8. 指導者養成制度改良に向けた検討

現行の指導者養成カリキュラムは2006年に運用開始となり、10年を迎える。この間、キャンプを取り巻く社会情勢にもさまざまな変化があり、キャンプディレクター2級養成を課程認定団体主催で行えるようになるなど、制度上の変更もあった。

こうした変化に対応するため、委員会を設けて指導者養成制度改良の作業を行う。キャンプディレクター養成テキストの『キャンプディレクター必携』の改訂とともに、キャンプディレクター2級養成講習会のでびき作成の作業を進め、2017年度から運用する。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな実践について知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。

国内外のキャンプに関連する実践、新たな知見を蓄積、整理するとともに、わかりやすく社会に提供する。また、参加者同士が情報を持ち寄って学びあったり、各自が提案しながら新しい学びの機会を創造することのできる場を提供する。

1. Camp Meeting in Japan 2016 ～第20回日本キャンプミーティング～

さまざまな地域、分野、立場で活躍しているキャンプ関係者が、日頃の実践の成果を発表し、参加者間の情報交換や情報共有ができる機会を提供する。

この年度は意見交換を充実させることを意図し、ポスター発表と分科会、全体会（講演）という新しい構成を試みる。

日程：2016年6月4日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

2. 定期刊行物『キャンプ研究』

会員の研修機会のひとつとして、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、キャンプに関する論文、実践報告等を掲載した『キャンプ研究第20巻』を発行する。

キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWEBサイトで公開し、広く読まれるよう配慮する。

発行日：2017年2月15日（水）

発行部数：3,350部

3. Café de CAMP（カフェ・デ・キャンプ）

キャンプに興味を持っている人、これからキャンプに携わりたいという人を中心に集まり、講師を囲んで意見交換をしたり、相互に事例発表を行ったり、実践的なプログラムを体験したりする、つながり、学びあう場を設ける。

内容については参加者の意見を取り入れるとともに、キャンプ以外の団体とも連携し、日本キャンプ協会にとって新しいテーマも積極的に取り上げることとする。

日程：年間5回

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）ほか

4. Special Needs Campに関する調査研究とその周知に関する事業

Special Needs Camp（スペシャル・ニーズ・キャンプ）は、グリーフキャンプ（大切な人を亡くしたキャンパーを対象とするキャンプ）や障害児者キャンプ、病児キャンプなど、特定の配慮を必要とするキャンプを指す。キャンプを通じた社会貢献を考えた場合、欠くことのできないテーマである Special Needs Camp について、情報収集を進めるとともにネットワークづくりに着手する。あわせて、子どもの支援活動を行う他団体との連携によるキャンプの実施を模索する。

(1) Special Needs Camp に関連する情報収集とネットワークづくり

今後、Special Needs Camp を行ううえで必要になってくると思われることについて情報を収集し、整理する。また、こうした情報を共有し、Special Needs Camp の普及を推進するためのネットワークづくりに取り組む。

(2) 子どもの支援活動を行う他団体との連携によるキャンプ

育児支援やグリーフサポートなど、地域に密着して日常的に子どもの支援活動を行っている団体が多く存在する。それらの活動の効果を強化する手段としてキャンプは大きな役割を果たせると考えられるが、人的、資金的問題から簡単に実現はできない。

そこで、それらの団体と共同し、キャンプのノウハウや人的資源を提供したり、ともに資金獲得の取り組みを進めることでキャンプを実施する方法を模索する。

法人事務

日本キャンプ協会の適正規模を模索するとともに、運営の効率化を図り、健全な財務管理に努める。また、新たな支援者層の獲得を目指して、その方策を検討するとともに、キャンプの最前線である都道府県キャンプ協会が円滑に事業を行えるよう効果的な支援を進める。

1. 諸会議の開催

(1)総会 第1回 2016年6月4日(土) 第2回 2017年3月11日(土)

(2)理事会 第1回 2016年5月14日(土) 第2回 2017年3月11日(土)

(3)執行理事会 随時(年7回程度)

(4)運営委員会/タスクチーム・ミーティング等

名称	概要
研修・普及事業委員会	各種研修事業の年間プランの検討と検証
CAMPING 編集タスクチーム	CAMPING の企画編集
朝霧運営タスクチーム	静岡県立朝霧野外活動センター運営
Camp Meeting タスクチーム	Camp Meeting in Japan の企画運営
キャンプ研究編集タスクチーム	キャンプ研究の企画編集
指導者養成委員会	指導者養成制度の検討および養成講習会等の企画運営
地域連携委員会	都道府県キャンプ協会へのサポート、ブロックでの取り組み等を検討

設立 50 周年記念事業に関するもの

名称	概要
50 周年事業組織委員会	2016 年に実施する協会設立 50 周年記念事業の構成・運営体制の検討
50 周年事業作業部会	2016 年に実施する協会設立 50 周年記念事業の個別事業の企画運営 (詳細は P6 参照)

他団体と共同で行う事業に関するもの

名称	概要
出会いと体験の森へ実行委員会	関連 5 団体で実施する「人を育てるキャンプ」に関連する事業の企画運営
中央青少年団体連絡協議会世話人会	研修会・懇談会・新年互礼会など

(5)ブロック会議 都道府県キャンプ協会指導者研修会内及び各ブロックによる実施

2. 持続可能な協会運営を検討する取り組み

日本キャンプ協会の運営は、指導者資格を伴う会員制度を基盤としているが、将来にわたって安定的に運営を行うためには、今後、新たな経営資源が求められる。

新規事業を含む今後の事業のあり方、運営体制のあり方、各種助成金やプロボノ(各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動)といった社会資源の活用、ファンドレイジング(民間非営利団体が活動のための資金を集める取り組み)及び支援者獲得のための方法などについて、検討チームを編成し検討する。

3. 都道府県キャンプ協会の活動に対する支援

都道府県キャンプ協会は、日本キャンプ協会と密接な協力関係にある、キャンプ普及・振興の中心的存在である。有用な情報の提供や広報活動のサポートなどを通じて、その活動を支援する。

- (1) 都道府県キャンプ協会指導者研修会の開催
- (2) 都道府県キャンプ協会の行う諸事業の支援

4. 日常法人事務

2006年に構築した会員管理システムと2010年に導入した会計システムについて、見直しを行う。近年システムのクラウド化が進み、初期費用の軽減化が見込める。これにより、業務の効率化を図り、経営の健全化に努める。

- (1) 会員情報管理
- (2) 会費等徴収
- (3) 事業方針・計画・予算の管理
- (4) 日常経理業務
- (5) 事業運営管理
- (6) 助成金事務
- (7) 人事管理・職員の研修
- (8) 渉外事務
- (9) 庶務



日本キャンプ協会設立 50 周年

公益社団法人日本キャンプ協会

www.camping.or.jp